

批判

道路問題のいろいろ

幡川生

一

道路の悪いことが東京名物の一となつた今日今更其の名物を失ふのも惜いことゝ考へたのか、中々改良工事が遅々として進まぬ。東京の真中の丸の内では砂利敷土砂道の面目を維持せんとしや、小砂利を敷いては自動車や馬力の車輪で粉砕して、之も東京名物の砂塵の製造に懸命である、歐米の道路改良は、其の端を塵埃なき道路ダストレスを求むるに發して居る、彼の

地では郊外道路でさへ砂塵を見ること難き今日に於て、東京の道路は何たる情ないことであらう。凱旋道路を見た或る西洋人は「此處は海岸？」と尋ねたそうだ、道路に敷き均らした砂礫を見ての皮肉である。

二

我國では何でも永續性に乏しい、當初は花々しく活動するが終には彗星の尾の如く消えてしまふ、鳴物入りで世の中に

生れた交通道德會の現状は如何？。一時電車内の廣告に、學校や寄席での宣傳歌に將又丸段坂上での交通整理に、天下の交通道德を獨占した觀があつたか、今は其の存在すらも明かでない。交通整理を道德的にやつて行かうと云ふ點に無理がある。交通の整理は先づ設備の完成が第一である、權力の行使が第二である。今のやうにセチ辛い世の中に、交通整理を道德で解決しやうと云ふことが餘りに現代離れして居る。是れ交通道德會存在が、世間に忘れらるゝに至つた眞因ではあるまいか。

三

道路、街路の名稱に關するSS生の本誌前號の記事は、一種の見解である。但し其の主張の根本に吾人の同意し得ざる獨斷も少くない。道路街路の名稱は「適當にして簡明従つて世間に通用せらるべき名稱」を付することは固より異存のあるべき筋合ではない。只之を「道路行政の根本」であると爲すことには異存がある。名稱は通俗でよい。併し通俗なるが爲め正確を缺く虞あるときは、寧ろ通俗を捨て、正確に就くべきである。例へば京濱國道と云へば、おほろけながら東京から横濱に行く國道であることは推測することを得るも、

東京から神奈川縣廳に行く國道か、東京から横濱港に行く國道か、明瞭を缺く。これを明瞭にするが爲めには、勢ひ通俗の名稱が問題となる。天プラ屋の橋善は何人も知つて居る、芝の區役所に行つて戸簿簿を調査して見よ、橋谷善次郎なる者はあるが、橋善なる者はない。橋谷善次郎は官僚式の名稱であつて、通俗でないから橋善と改名するがよろしいと云ふのがSS生の議論である。道路は學校や橋梁とは違ふ。その簡単な名稱が付けらるゝものでない。

四

前項SS生の論は街路には番地も出来ることであらば、ボニヤリした通俗的な名稱を附しても大した差支はないかもしらぬ、併し「ブロードウエイ・フィスアヴニユ」と云へば、其の名稱に伴つて無限の風韻詩趣聯想が湧く」と云ふことは如何であらうか。尤も之は其の人の感想であるから批評の限りではないか、廣路とか第五大通りとか譯して見れば、タワイも無いものである。世界何れの國でも、道路や街路の名稱には困りぬいて居る。伊太利には十一月二十五日通りと云ふ町があるかと思へば、米國には十三半通りなどと云ふ窮した名もある、復興局などが、橋梁の名稱に多額の賞を懸けて募つ